

経済の変化をとらえる方法を学び、日本経済の現実を知る —現実の経済社会を知り、経済活動のあり方を考える手立てとする—

(総授業時数：4時間)

実施学年、教科等

第1学年～第3学年 公民科「現代社会」

単元の目標

- (1) 幸福・公正・正義などの価値を用いて望ましいインフレ・デフレに関する対策や政策、経済成長に資する政策や対策を考えることができるようにする。
- (2) 統計図表やグラフなどの資料を活用し、客観的な事実から主体的かつ適切に判断できる力の基礎を養うことができるようにする。
- (3) 現代の経済社会の動きに関連させながら、インフレとデフレ、国民所得と国富、成長と循環について理解することができるようにする。

学習の評価

- (1) 幸福・公正・正義などの価値を用いて望ましい経済社会のあり方について考えようとしている。
(グループ討議での発言、発表)
- (2) 統計図表やグラフなどの資料を活用し、客観的な事実から主体的かつ適切に判断するよう努力している。
(グループ討議での発言、発表)
- (3) インフレとデフレ、国民所得と国富、成長と循環について基礎的基本的な知識を理解している。(ワークシート)
- (4) 現代の経済社会の動きに関連させながらインフレとデフレ、国民所得と国富、成長と循環について理解している。(ワークシート)

展開の特色

- (1) 公民科「政治・経済」でも展開できる内容であるが、生徒の調査活動を前提とする点で「政治・経済」よりも「現代社会」としての特色をもつ。
- (2) 基礎的基本的な知識の定着を重視しながらも、生徒の主体的な学びを第一に考えた展開であるという特色をもつ。

その他

- (1) ワークシートを印刷しておく。
- (2) 日本銀行制作広報ビデオ『くらしとつながる日本銀行』が見られる環境にしておく。事前に映像資料を借りたり、ICT 機器やタブレット端末などを活用して動画配信サイトを見られるようにしておく。

「学校における金融教育の年齢層別目標」の該当項目

*記号については、P.32～45を参照。

Aーア・ウ、Bーア・イ・ウ・エ

学習内容のキーワード

インフレーション、デフレーション、物価、日本銀行、国民所得、国富、経済成長、循環

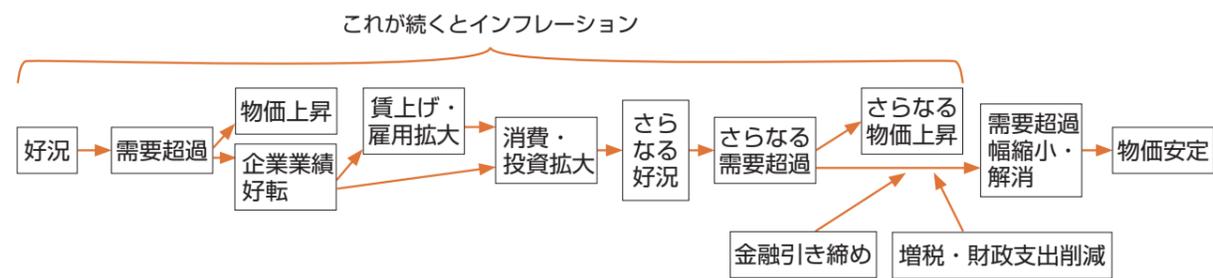
●指導計画

時数	ねらい	学習内容・学習活動	◆金融教育の視点	★指導上の留意点	その他(資料等)
1 2 本時	<ul style="list-style-type: none"> 現代の経済社会の動きに関連させながらインフレとデフレについて理解させる。 幸福・公正・正義などの価値を用いて政策提言を試みる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●インフレとデフレの定義を確認する。 ●物価の安定や動向について理解を深める。 ●インフレやデフレの種類や要因について確認する。 ●インフレ対策やデフレ対策を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆インフレ・デフレの学習が私たちの生活に密接に関わっていることへの理解が深まる。 	<ul style="list-style-type: none"> ★基礎的基本的な知識の確認を大切にする。 ★経済に関わるこれまでの学習の成果を活用するように留意する。 	
3	<ul style="list-style-type: none"> 国民所得と国富について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●経済量の表し方としてのフローとストックを確認する。 ●GDPははじめ主な経済指標を理解する。 ●経済成長率の求め方を知る。 ●国富の内容を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆国民経済の規模と諸相について理解を深める。 ◆国富が実物資産と対外純資産から成り立つことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ★生徒の実態や学校の特性に即して内容の理解を深めさせるように配慮する。たとえば国富についてバランスシートの理解がある生徒を対象とするならば、有形資産と金融資産から構成される総資産を左側に書き、負債と正味資産を右側に書く形で示すと正味資産すなわち国富の位置付けがひと目でわかるので、生徒の実情に合わせて学習を進めるよう工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『国民経済計算年報』、『日本国勢図会』など生徒に身近にある資料を活用する。
4	<ul style="list-style-type: none"> 経済の変化をとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●経済は成長と循環でとらえることができることを確認する。 ●経済成長の量的側面、質的側面、要因について理解する。 ●景気循環の4局面と内容を確認する。 ●産業構造の変化を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆成長についてはGDPなどの指標を活用するとともに成長の要因について理解させる。 ◆循環については原因と4局面、周期について理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ★成長については前時におけるGDPの学習の成果を活用するよう留意する。 ★産業構造の高度化については産業別就業人口の推移や産業別国内総生産の推移、工業の部門別構成の推移などのグラフなどを用いて理解を深めさせるよう工夫する。 	

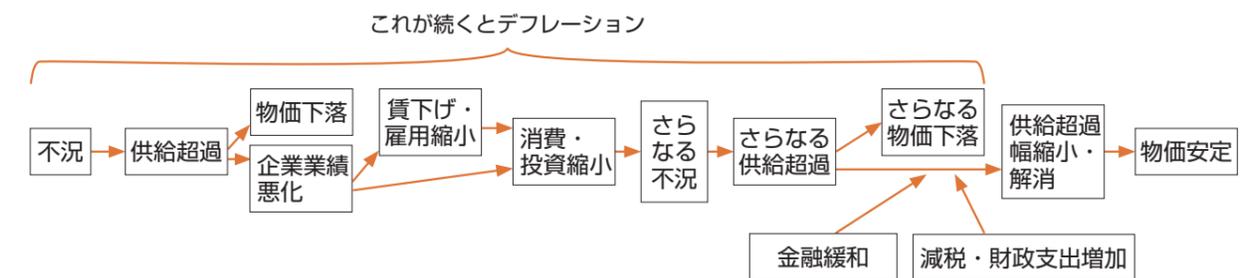
●教材・資料等 (本時の授業で用いる教材や資料、ワークシート等)

インフレーション・デフレーションのフローチャート (板書のイメージ)

・インフレーション



・デフレーション



1 金融教育のねらいと基本的性格
2 金融教育の目標と方法
3 金融教育を支援する関係機関等の活動
4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて
5 小学校における金融教育
6 中学校における金融教育
7 高等学校における金融教育

1 金融教育のねらいと基本的性格
2 金融教育の目標と方法
3 金融教育を支援する関係機関等の活動
4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて
5 小学校における金融教育
6 中学校における金融教育
7 高等学校における金融教育

資料

資料

本時の目標

ア：現代の経済社会の動きに関連させながらインフレとデフレについて理解させる。
イ：幸福・公正・正義などの価値を用いて望ましいインフレ・デフレに関する対策や政策、経済成長に資する政策や対策を考える。

●本時の展開

	学習内容	●学習活動	◆金融教育の視点	★指導上の留意点	その他
導入	・インフレとデフレの定義を確認する。	●教科書や資料集などで用語を確認する。	◆基礎的基本的な用語を確認する。	★導入としての用語の確認であることに留意する。 ★用語の確認にとどめ、深入りは避ける。	
展開①	・お金の価値の安定が私たちの暮らしに重要であることを確認する。	●日本銀行制作広報ビデオ『くらしとつながる日本銀行』の中から「お金の価値の安定」を見る。	◆日本銀行に対する理解が深まる。 ◆物価の安定の重要性について理解が深まる。	★映像資料を見ながらワークシートの設問に答えを記入させる。映像資料の提示が終わったところで再度内容の確認をしながら設問への解答を示す。 ★ワークシートはインフレ・デフレについての理解を深めるための手立てであり、答え合わせにならないよう留意する。	・映像資料を漫然と見過ごしてしまう可能性があるよう要点について注意喚起することも必要である。
展開②	・今日の日本の物価動向を知る。	●日本銀行が発表している統計（「経済・物価情勢の展望」など）や『日本国勢図会』掲載資料などから近年の日本の物価動向を確認する。	◆日本銀行のまとめている統計資料を活用することで日本銀行に対する理解が深まる。 ◆物価動向が経済動向と密接に関連し合っていることが理解できる。	★統計資料の活用の仕方に慣れるよう生徒の実態に合った指導助言を行う。	・資料を探す時間を短縮するために日本銀行HPを見るよう指示を出すことも必要である。
展開③	・インフレの種類や要因およびデフレの種類や要因を知り、現代経済のしくみの一端を理解する。	●需要供給曲線を使ってインフレやデフレの仕組みを考える。	◆モデルとしての需要供給曲線を活用する。	★モデルとして単純化して示すよう工夫する。	
まとめ	・望ましいインフレ・デフレ対策を考える。	●幸福・公正・正義などの価値を用いて、具体的な施策としてのインフレ・デフレ対策を考え、グループで検討して発表する。 ・インフレで得をする人（一般に債務者、財政赤字下の政府など）とデフレで得をする人（一般に多額の現金保有者など）の利害や、物価安定のメリット（お金を安心して保有し使うことができること）を念頭に置いて考える。	◆金融について考えることが生徒自身の生活を考えることに直接関わることだと気付くことになる。	★単なる感想や抽象的な意見ではなく、具体的な政策提言を提示させるよう留意する。 ★発言内容もさることながら、生徒自身が自分の言葉で語ろうとする努力も評価するよう配慮する。	・グループ討議は不慣れた生徒であっても討論させてみることに意味があるので、討論が不十分であっても不問とする。

ワークシート解答例

I-1 a インフレ（インフレーション）
I-2 b デフレ（デフレーション）
（参考）① 消費者物価指数
② 企業物価指数

II-1 「安心してお金が使えない」
II-2 c 減る d 給料 e 買わなく f 売れなく
II-3 物価の安定が大切

II-4 g 下がる h 借りやすく i 買う j 良く
II-5 k 増やし l 買う m 金融政策決定会合
II-6 n ヒアリング o 短観

III-1 出典例 日本銀行のHPや『日本国勢図会』など
III-2 例1 国内企業物価指数の総平均をみる。2010年を100とすると、2011年に101.5、2012年に100.6、2013年に101.9となっている。企業物価は落ち着いている。

例2 消費者物価指数を全国で見ると、2010年を100とすると、2011年に99.7、2012年に99.7、2013年に100.0となっている。消費者物価はデフレ傾向にあったものの持ち直した。
IV-1 珍しい野菜への需要が増大し、需要曲線Dが右にシフトして交点pが右上に移動し物価が上がることがわかる。
IV-2 野菜の供給量が減少したことから、供給曲線Sが左にシフトして交点pが左上に移動し物価が上がることがわかる。

V 自由記述につき省略
自由記述ではあるが、人々の幸福の実現に資する政策はどういう政策か、その政策は人々にとって公平なものであり、公正さは担保されているかなどの視点からのものであることが望ましい。授業者による適切な助言は必要である。

1 金融教育のねらいと基本的性格

2 金融教育の目標と方法

3 金融教育を支援する関係機関等の活動

4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて

5 小学校における金融教育

6 中学校における金融教育

7 高等学校における金融教育

資料

1 金融教育のねらいと基本的性格

2 金融教育の目標と方法

3 金融教育を支援する関係機関等の活動

4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて

5 小学校における金融教育

6 中学校における金融教育

7 高等学校における金融教育

資料

●教材・資料等 (本時の授業で用いる教材や資料、ワークシート等)

ワークシート

I インフレとデフレのことはを定義しましょう。インフレとデフレの定義について述べた次の I-1～2 の文を読み、空所 a～b に適語を補いましょう。

I-1 物価が持続的に上昇し続ける現象を a _____ といいます。

I-2 物価が持続的に下落し続ける現象を b _____ といいます。国際通貨基金や内閣府の定義では「2年以上の継続的な物価下落」を b _____ としています。

(参考) 物価について述べた次の①～②の文を読み、空所①～②に適語を補いましょう。

① 商品の店頭価格でとらえる物価指数が① _____ であり、総務省統計局が調査し発表する指数で、消費財の価格の変化をあらわしています。

② 企業と企業の取引の段階で価格をとらえる物価指数が② _____ であり、日本銀行調査統計局が調査し発表する指数で、景気を敏感に反映すると言われます。

II 日本銀行制作広報ビデオ『くらしとつながる日本銀行』の中から「お金の価値の安定」(約6分間)の部分を見ながら、次の II-1～6 に答えましょう。

II-1 喫茶店に入ったナビゲーターがコーヒーを注文すると、この前まで一杯 300 円だったコーヒーが 1,000 円と言われる場面があります。

お札博士から、コーヒー 1 杯の値段が短期間に 1,000 円になったり 300 円になったりしたらどうか、と尋ねられたナビゲーターは何と答えていますか。

→

II-2 お札博士が、物価が下がり続けたらどうか、と問うのに対して、ナビゲーターは、デフレが続けばモノが安く買えるのだから暮らしが楽になっていいと言います。しかし、お札博士は品物の値段が下がることでいろいろな影響が次々とながって起こることを説明します。

お札博士はお店や会社の売上げが下がることが、経済全体にどのような影響を及ぼすと説明していますか。空所 c～f に適語を補いましょう。

→ 値段を下げる。

→ お店や会社の売上げが c _____。

→ 働いている人の d _____ が下がる。

→ モノを e _____ なる。

→ モノが f _____ なる。

→ 値段がさらに下がる。

II-3 お札博士からデフレの影響を聞いたナビゲーターは物価について何と語っていますか。

→

II-4 お札博士は、日本銀行はデフレが心配されるときどういう対応をとると語っていますか。空所 g～j に適語を補いましょう。

→ 金利が g _____ ようにする。

→ お金を h _____ する。

→ モノを i _____ 人が増える。

→ 景気が j _____ なる。

II-5 お札博士は、デフレからの脱出策として日本銀行はどのような方法をとると語っていますか。次の文章を読み、空所 k～m に適語を補いましょう。

→ 銀行同士で行われている短期の資金のやりとりに加わり、日本銀行から市中金融機関への貸し出しを k _____ たり、市中金融機関が持っている国債を l _____ などして、市場に直接資金を供給したり、短期金利を低めに誘導します。場合によっては長期金利にも影響を及ぼす政策をとることもあります。

こうした日本銀行の金融政策は m _____ で決められます。

II-6 お札博士によれば、日本銀行は景気の分析をしています。具体的にどのような分析をしているのか、次の文を読み、空所 n～o に適語を補いましょう。

→ 日本銀行は全国の企業を回って実情を n _____ したり、3か月に一度、全国の企業を対象に業況調査を実施し「全国企業短期経済観測調査」略して o _____ として発表しています。

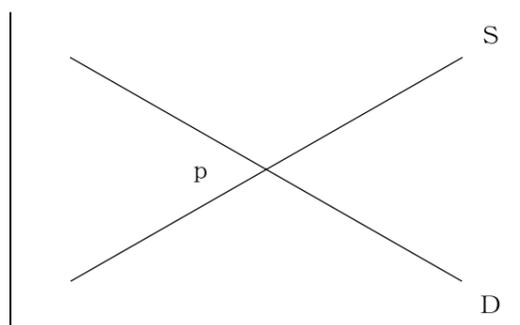
III 近年の物価動向について調べましょう。

III-1 調べた本の表題やサイトは何ですか。

III-2 調べた結果の概要と結論を書きましょう。

IV 原因から見たインフレを考えましょう。

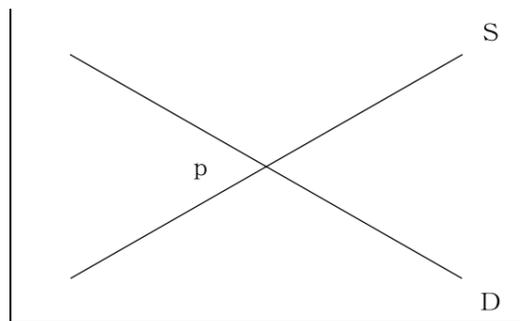
IV-1 国民の嗜好の変化に伴い珍しい野菜への需要が増大した（ただし他の財への需要は変化しない）ことで発生するインフレについて、需要供給曲線を使って説明しましょう。



説明の手掛かり：ここでは総供給曲線は動かないものとして考えましょう。

説明→

IV-2 天候不順によって野菜の供給量が減少したことで発生するインフレについて、需要供給曲線を使って説明しましょう。



説明の手掛かり：ここでは総需要曲線は動かないものとして考えましょう。

説明→

V 望ましいインフレ・デフレ対策を考えましょう。

V-1 あなたの考えをまとめましょう。

→

V-2 グループで話し合い、意見を交換する中で理解した他の人の考えの要点を書きましょう。

→

V-3 あなたのグループで話し合った結果、採用することにした施策の要点をまとめましょう。

→

V-4 クラス内での発表を聞き、他のグループが提示した施策の要点をまとめましょう。

→